

# 千葉県立国分高等学校

実践報告－図書館利用の活性化と読書による豊かな心の育成を目指して

## 1 学校の紹介（学校概要及び読書活動に関する目標等）

千葉県立国分高等学校は、千葉県北西部の市川市と松戸市との境に位置し、昭和39（1964）年創立の全日制普通科の高等学校であり、一昨年度（平成25年）、創立50周年記念式典を実施した。

「自主・自律」を校訓とし、平成27年度は、各学年8学級、965名の生徒が在籍している。全校生徒の約92%が部活動に所属しているとともに、第3学年生徒の90%前後が現役で上級学校に進学している。

特色ある教育活動としては、“Think globally, Act locally”を掲げ、平成14年度から、海外修学旅行を実施している。これまでに、シンガポール、韓国、香港、マカオ及び台湾を訪れているが、加えて、平成24年度から、グローバル人材プロジェクト実施校として、海外経験豊富な外部講師による講演及び留学生との交流なども実施している。さらに、平成25年1月、ユネスコスクールに加盟し、ESD（「持続可能な開発のための教育（文部科学省）」の略語）の推進拠点としても活動している。

読書活動に関する目標は、「図書館利用の活性化と読書による豊かな心の育成」であり、本年度、県教委からの実践協力校の指定を受け、下記の実践を行った。

## 2 自校の図書館の現状

本校図書館の開館時間は、8時40分～16時40分であり、貸出及び返却業務等はその時間帯での実施となるが、生徒の早朝学習の利便を図るため、学年職員と協力し、学年及び図書館担当職員が出勤した時点で開館時間よりも早く開館している。早朝の利用者は、主に受験を目指している3年生であるが、平均して10名程度、多い日で20名程が利用している。昼休みについても同様で、昼食後、直ぐに3年生が来館し、20名超の生徒が静かな環境の中で学習している。

現在の図書館は、2年前の耐震化工事により建て替えられた管理棟の3階に位置し、天気の良い日には富士山とスカイツリーが同時に臨める環境にある。建替工事に伴う仮設校舎への移転を前に、段階的に除籍作業を進めてきたため、現時点での蔵書数は約1万冊である。移転後、当時の図書委員会の生徒達が、棚に収められた書籍を全て並べ替えるとともに、書庫に入っていたために埃をかぶっていた書籍を、春休みから4月末日まで、1冊ずつ丁寧に拭くなどの地道な作業に取り組んでくれたことは、この先も忘れることはない。

## 3 「図書館利用の活性化」への取組

### （1） 校内組織と主な役割

本校での図書係は、校務分掌上、教務部に属している。図書館に常駐する職員は、司書教諭（国語科教諭）と実習助手（学校司書）に加え、職員2名が増員されてい

て書籍の貸出・返却及び除籍作業の他、図書館便りの発行、絵本の読み聞かせ及びビブリオバトル等の各種活動を分担して行っている。

## (2) 生徒や職員に対する支援

### ア 図書館利用のガイダンス

毎年度4月に、1年生を対象とした図書館オリエンテーションを実施している。これは、コンピュータ室での情報オリエンテーションと並行して行うものであり、図書館において、約20分間、使用方法等について指導している。当該オリエンテーションでは、本の分類法及び請求記号等についての説明並びに館内案内及び利用上の注意等を行うとともに、卒業時まで3年間使用する貸出カードを配付している。

### イ 読書推進活動に関すること

本年度、本校における初の試みとして、各学期に1回、近隣の幼稚園を訪問し、絵本の読み聞かせ活動を行うとともに、2学期にビブリオバトルを実施した。また、毎朝、1・2学年で朝読書を行っている。

#### ① 絵本の読み聞かせ

各学期1回、期末考査の答案返却日に、近隣の幼稚園を訪問して絵本の読み聞かせ活動を実施した。事前指導としては、1学期に進路指導部が主催する「幼児教育体験講座」で近隣大学の先生を招いた際、「絵本の読み聞かせ」に関する講義を受けた。講義では、「聞き手の為に音声化する時、実は読み手の脳もリラックス度が高くなっていることが実証されている。」ことや、染色体の異常で、ひとりでは物を見ることも持つこともできなかった子供が、母親が諦めずに絵本の読み聞かせを続けたことにより、やがて言葉が話せるようになったという実話に基づく『クシュラの奇跡』(のら書房)の紹介を受けた。さらに、講義の中では、演習として、2人1組になって交互に読み聞かせを行い、効果的な読み聞かせの在り方について指導を受けた。また、現時点(平成28年1月)では未実施であるが、3月に近隣の幼稚園を訪問し、幼稚園の先生による読み聞かせを見学した後、子供の心を惹きつける読み聞かせのコツなどについて、御教示をいただくことになっている。



#### ② ビブリオバトル

各ホームルーム、学年及び全校規模での段階的な実施を想定し、本年度は、実験的に、図書委員会として実施した。年度当初に係決めを行った際に立候補があったビブリオバトルの係から、バトラー5名を選び、紹介本の決定及びプレゼンテーションの準備をさせるとともに、その他のメンバーから司会2名、計測係2名、記録係1名を選出した。事前指導としては、バトラーがプレゼンテーション

を行う際の留意事項の説明の他、司会の原稿、投票用紙及びチャンプ本決定のための記録用紙の準備を行った。ビブリオバトルを行うに当たって、バトラーは、自分が伝えたいことを、聞き手にわかりやすく伝えるにはどのようにしたらよいかを工夫することになる。「タスクベース・ラーニング」と呼ばれる指導法があるが、その観点から述べると、事前にタスク（課題）を与えておくことにより、学習者は目的を持って読むことで、読みが深まる。つまり、バトラーは、選んだ本に対する自らの感動だけでなく、それを言語化して他者に伝えるという課題を意識することによって、更なる熟読を重ね、そのことが、理解の深化や新たな発見に繋がっていくことになる。そして、そうしたバトラーの思いは、その本を読みみたいという、他者に対する読書活動を促すことになったと思われる。

また、バトラー以外の運営係にも成長が見られた。一例を挙げれば、司会の生徒は、バトラーと聴衆の様子に配意し、計測係と連携して追加質問を募るなど、臨機応変に対応することができた。このことで、本人も達成感を感じたようである。

今回、ビブリオバトルを試行したが、事後に、次は自分もやりたいと言う生徒達が複数出てきた。開催までの諸準備は大変ではあったが、実り多い実践であったと思う。一方、課題も明らかになった。図書委員の生徒達にとっても、ビブリオバトル自体を経験するのは初めてであったため、遠慮してなかなか質問が出てこない場面もあり、バトルの面白さを十分に伝えることができなかった。図書委員会は、総じて言えば、本好きの生徒達が集まっている集団であるが、このビブリオバトルを、ホームルーム単位、学年単位及び全校で実施する場合には、バトラーの選定及びプレゼンテーションの事前指導等を始めとして、担当となる職員にかなりの負担がかかることが予想され、職員間の合意形成及び協力態勢の構築が課題である。

### ③ 朝読書

3年程前から、1・2学年で、原則、月曜日から金曜日まで毎日、朝読書を実施している。各学年の担当職員が、1年生は3分程度で読めるもの、2年生は5分程度で読めるものを新聞記事等から選定して原稿を作っている。実施後、生徒達は、各自のファイルに綴じ込んでいる。1学年では、登校した生徒がすぐに読めるように、教室の教卓の上に置くことになっている。そのため、担当職員は、前日の朝会時までには担任の机の上に配付プリントを置いている。

朝読書は、毎日、少しずつでも文章を読むことによって、知識を増やすとともに読解力を付けることを目的としている。本年度、1学年での実施に当たり、担当職員の1人として、意識付けのために学年集会で生徒達に話をした。

#### ④ 職員による推薦図書案内（冊子）の発行

本年度、1年生を対象に、全職員で「高校生になったら読んでもらいたい本」を推薦図書として手作りの冊子にまとめた。職員には、1ヶ月の準備期間後、教務室のパソコン内に設けた教科ごとのフォルダーに、デジタルデータ（200～400字）での提出をお願いした。集めた推薦図書の紹介文については、1年生の図書委員に1ページずつカットを選ばせるとともに、図書委員会全体で綴じ込み作業を行った。表紙には、美術選択者の版画作品を選び、文字通り手作りの冊子ができあがった。

なお、図書館に入っていない推薦図書については、至急注文することとなり、夏休み直前の終業式前日に登録作業を終え、展示テーブルに「先生方の推薦図書」のコーナーを作って展示することができた。

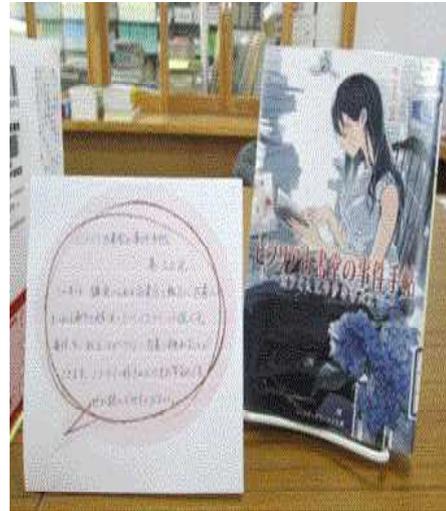
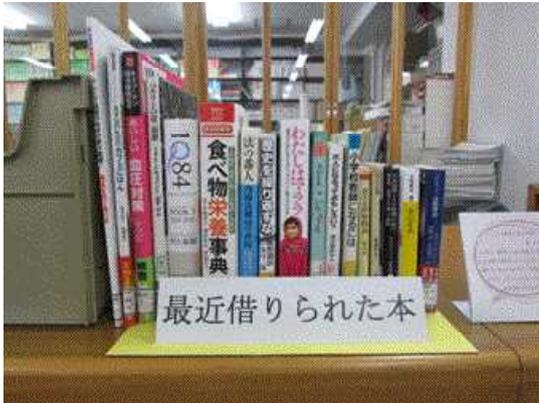
さらに、生徒への推薦図書については、冊子の配付だけではなく、夏休みの課題として、読書感想文の提出を求めた。学年集会で、冊子を作成した意味及び感想文の書き方等についての説明をした。冊子の巻末には、提出用の1000字詰め原稿用紙（切取線で切り離せるもの）と「原稿用紙の使い方」を綴じ込んだ。読む本は、推薦図書もしくは、同時期に全校生徒及び職員に配付した「高校生に読んで欲しい50冊」（無料配布冊子）収録の本又はそれ以外の本でも良いとし、提出は2学期の始業式の日とした。2～3名の優秀作品を学級担任及び副担任で協力して選び、その中から、校長賞、学年主任賞、図書委員会賞（1年の図書委員が選定者）及びセンゲージ・ラーニングの課題図書（薄い英語のテキスト）の感想文を書いた生徒を特別賞として選出し、学年集会で表彰した。受賞者は、それぞれ外部の読書感想文コンクールにも応募し、センゲージ・ラーニング読書感想文コンクールでは優勝、千葉県読書感想文コンクールでは優良賞をいただき、生徒には達成感を味わえることができた。



#### ⑤ 本の紹介文のポップ展示

1年生に、課題として、夏休みに本を1冊読ませたことから、各自に読んだ本の紹介文を書かせ、図書館にある本と一緒にポップ展示することにした。これは、感想文同様、インプットからアウトプットを求めるものではあるが、原稿用紙と違い、限られたスペースに限られた文字数で紹介文を書くことになり、他者に読書の推進を促すこと以上に、作成者自身に達成感を持たせる活動となった。

なお、ポップの用紙はインターネットで探し、カラー印刷をしたものを使用した。今後の貸出数増加に期待したい。



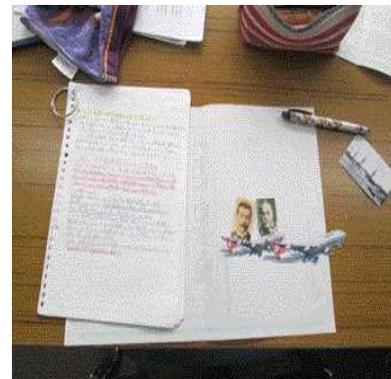
#### ⑥ その他の試み

朝日新聞に掲載された夏目漱石の『三四郎』を図書館担当職員で切り抜き、カウンターに展示した。2学年の「現代文」では毎年度『こころ』を学習することになっていて、生徒への興味・関心を持たせるために実施した。

### (3) 学習活動に関する支援

#### ア 教科指導に関すること

本年度2学期に、地歴公民科が図書館を利用して、1年生の「地理B」で日本を含む各国の自然、産業及び人々の生活等の調べ学習を行った。4クラスで延べ72時間使用し、本校図書館の他、本年度7月から新たに始まった千葉県立図書館による、ゆうパックを利用した宅配事業により、300冊を超える図書のレファレンス及び学校用セット貸出の協力をお願いし、調べ学習に役立てた。



また、家庭科では、2年生の授業で絵本の読み聞かせを行う際、図書館の絵本を



#### (4) 学校司書や公共図書館との連携

本校における実習助手（学校司書）は、「絵本の読み聞かせ」の際、研修で学んだ「読み聞かせを行うに当たっての注意点」を生徒に説明したり、図書館を使用して授業が行われる際、生徒のための資料検索等を行っている。その他、担当職員とともに図書館便りの発行を行ったり、新着図書のブックカバー掛けなどの業務を担当している。

また、公共図書館との連携については、千葉県立図書館との連携を行っている。授業における調べ学習に使用する本のレファレンスや貸出についての協力と「絵本の読み聞かせ」の際に使用する学校用セット図書及び大型絵本の貸出をお願いしている。初めての利用で戸惑いもあったが、その都度、適切な対処法を指導していただいている。さらに、千葉県立西部図書館長及び担当職員には、御来校いただいた際に、図書館運営に関する多くの有益なアドバイスをいただいた。巡回車の利用だけでなく、宅配便を利用した協力を得ることも可能であり、授業等で必要な時に借りることができるので大変助かっている。今後も是非、連携・協力をお願いしたい。

## 4 課題と成果

あれこれ模索し、試行錯誤の1年間だったと言える。しかし、その原点には、図書館を活性化させ、生徒達に読書の素晴らしさを実感させたいという思いがあった。そして、様々な課題も把握できたが、それ以上に、手応えや可能性を感じることができた1年間でもあった。

例えば、ビブリオバトルでは、正直なところ、当初は、不安な要素が多く、手探り状態であったが、図書委員による実践をとおしてホームルームや学年単位での実施に向け、多くの手掛かりや視点をすることができた。大袈裟な言い方になるが、事後の関係生徒の成長を実感することができた時、これは、指導者である職員が、しっかりとしたグラウンドデザインを持ち、生徒達のバイオリズムを把握した上で、授業展開同様、十分な事前準備や段取りを組んでいくことによって、成果が得られるものであると確信した。

また、職員による推薦図書を掲載した冊子の作成及び読書感想文の提出について、読書感想文を課題として課すことによって、逆に読書嫌いになってしまうのではないかという懸念を抱いての実践ではあったが、幸いなことに杞憂に終わった。そこには、ひとりでも読書の切っ掛けを掴み、書くために熟読することによって、深く作品を読み取り、思考する力を付けさせたいという私の思いがあった。生徒の成果物や、事後に実施したアンケート及びインタビューの結果を検証・吟味する限り、次年度以降も継続実施していくことが生徒のために有益であることは明らかである。

最後に、本年度実施した様々な試みについては、図書係の職員は当然のことながら、1学年を始めとする全職員の協力無しには達成できなかったことである。この場をお借りして感謝申し上げたい。

末筆ながら併せて、実践協力校として、本校に実践研究の機会を与えていただくとともに、御指導をいただいた、県教育委員会の先生方にも感謝申し上げたい。

# 地理歴史科 学習指導案

千葉県立国分高等学校  
実施者 福田 匡志

1. 日時 平成 27 年 11 月 19 日(木) 5時限目
2. 学級 1年7組(40名)
3. 学級観 生徒は真面目で、授業には熱心に取り組んでいる。講義形式の授業では発問に対する反応も良いため、できるだけ一方通行にならずに、生徒自らが考察・理解しながら、問題を解決できるようにすることを心掛けている。
4. 教科書 新詳地理 B(帝国書院)・標準高等地図(帝国書院)
5. 単元名 第 I 部 さまざまな地図と地理的技能 2章 地図の活用と地域調査  
及び  
第 III 部 現代世界の地誌的考察 2章1節 地誌の考察方法
6. 単元目標
  - ・ 地域調査を行う際の課題の設定と地域の選定方法及びさまざまな資料を活用して多面的・多角的に調査し、地理的特色を捉える地理的技能を身につける。
  - ・ 地域の特徴を把握するためのアプローチの方法を理解させる。
7. 単元指導計画
  - ・導入 (2時間)
  - ・地域調査 (8時間) ←本時
  - ・発表 (2時間)

## 8. 単元の評価計画

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域調査に対する関心と課題意識を高め、それを意図的に追求し捉えようとしている。</li> <li>・ 地誌の考察に対する関心と課題意識を高め、それを意図的に追求し、捉えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とり上げた地域の地域的特色を、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。</li> <li>・ とり上げた地域を、歴史的背景を踏まえて、多面的・多角的に地域の変容や構造を考察したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域調査に関する諸資料を適切に収集し、収集した資料から有用な情報を適切に選択し、これをもとに取り上げた地域については発表資料にまとめている。</li> <li>・ とり上げた地域について、基礎的、基本的知識を習得できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とり上げた地域の情報収集から発表までの方法をよく理解し、その知識を身につけている。</li> <li>・ とり上げた地域の地域的特色や課題を、地誌的に追究し、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察する過程や結果の学習を通して理解できたか。</li> </ul>

9. 本時の目標 地域調査を進めるにあたり、文献・資料中心の地域調査の技法を理解させる。

## 10. 本時の学習展開

段階	学習内容	指導上の留意点	観点別評価
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進度及び資料となる図書の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の資料を用いることで、物事を多角的に捉えることを理解する。</li> </ul>	関心・意欲・態度 思考・判断・表現
展開 44分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書架及びコンテナより蔵書を取り出し、地域調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域調査実施にあたり、必ず調査しなければならない下記条件を調査できているか 生徒のノートを確認し、アドバイスをする。</li> </ul>	資料活用の技能 知識・理解 思考・判断・表現
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵書をもとの場所に戻すとともに、図書館以外で得られる資料について話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を収集する場合の留意点について話をする。</li> </ul>	思考・判断 関心・意欲・態度

## 目次

氏名	書名	著者名	出版社	ページ
	君のためにできること	菊田まりこ	学習研究社	1
	池上彰のやさしい教養講座	池上彰	日本経済新聞社	2
	ディズニー掃除の神様が教えてくれたこと	鎌田洋	ソフトバンククリエイティブ	3
	車輪の下	ヘルマン・ヘッセ	新潮社	4
	安部公房全集全30巻	安部公房	新潮社	5
	図書館の神様	瀬尾まいこ	ちくま文庫	6
	ランドセル俳人の五・七・五	小林凜	ブックマン社	7
	エイジ	重松清	新潮社	8
	アフリカによろり旅	青山潤	講談社	9
	綾瀬はるか「戦争」を聞く	TBSテレビ『NEWS』取材班	岩波新書	10
	1リットルの涙	木藤亜也	幻冬舎	11
	大人になるっておもしろい？	清水真砂子	岩波新書	12
	ルーキー	山際淳司	角川文庫	13
	自分のなかに歴史を読む	阿部謹也	筑摩書房	14
	岳物語	椎名誠	集英社	15
	courage	バーナード・ウェーバー	U/LEAG	16
	聖の青春(さとのせいしゅん)	大崎善生	講談社文庫	17
	aha! Insight ひらめき思考	マーチン・ガードナー	日本経済新聞社	18
	スラムダンク勝利学	辻秀一	集英社インターナショナル	19
	16歳の教科書		講談社	20
	数学ガール	結城浩	SB Creative	21
	—	—		22
	孤宿の人	宮部みゆき	新人物往来社	23
	オルカー海の王シャチと風の物語	水口博也	早川出版	24
	未成年	野島伸司	幻冬舎	25
	よろずや平四郎活人剣	藤沢周平	文春文庫	26
	高熱隧道	吉村昭	新潮社	27
	いいことはいつくるかな？スヌーピーと仲間たちは…	エブラハム J・ツワルスキー	講談社	28
	地震と火山の日本を生きのびる知恵	鎌田浩毅	岩波新書	29
	月刊陸上競技		講談社	30
	市民ケーン	オーソン・ウェールズ		31
	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	岩波文庫	32
	Baseball Clinic		ベースボールマガジン社	33
	サクリフェイス	近藤史恵	新潮社	34
	錦織圭 マイケルチャンから学んだ勝者の思考	児玉光雄	楓書店	35
	芥川龍之介の作品	芥川龍之介	角川文庫など	36
	ボクの音楽武者修行	小澤征爾	新潮文庫	37
	マークスの山	高村薫	早川書房	38
	Steal Like an Artist	Austin Kleon	Workman Publishing	39
	朱頭巾ちゃん気をつけて	庄司薫	新潮文庫	40
	楊家伝	北方謙三	PHP文庫	41
	マークスの山	高村薫	早川書房	42
	書いた、恋した、生きた、ヘミングウェイ伝	佐伯彰一	研究社	43
	The boy who harnessed the wind	William Kamkwamba	Harper Collins	44
	ベストエッセイ集 2011年版「人間はすごいな」	日本エッセイストクラブ編	文春文庫	45
	渡りの足跡	梨木香歩	新潮文庫	46
	幼年期の終わり	アーサー・G・クラーク	光文社古典新訳文庫	47
	青葉茂れる	井上ひさし	文藝春秋	48
	本所深川ふしぎ草紙	宮部みゆき		49
	ファーブル昆虫記	ファーブル	集英社文庫	50
	沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮文庫	51
	ラヴ・フォー・エパー	ロバート・マンチ	岩崎書店	52
	ベッキーの心のとびら	ベッキー	幻冬舎	53
	ソードアート・オンライン	川原礫	電撃文庫	54
	鏡の中の少女	柗淵幸子,森川那智子,他	集英社	55
	理系女子的生き方のススメ	美馬のゆり	岩波ジュニア新書	56

\*本資料では割愛してありますが、親近感を高めるために教職員の氏名を載せてあります。